



三月号
發行所 財団法人全日本仏教会
東京都中央区築地
三ツ又(本願寺内)
電話(外)〇三三三
三三三(本願寺内)
振替東京三三六〇〇
發行人 栗本俊道
編集者 別所弘因
印刷所 榮昌堂

花まつりと

新時代の創意

花まつりの名称は一九〇一年ベルリンに於いて当時留学中であつた岩谷小波、近住常観、姉崎正治、芳賀矢一等の人々によつて企てられた時に始まると聞く。

安藤嶺丸氏等によつて浅草公園のテント張りの中で才一回の東京花まつりが行われたのはベルリン行事より少し遅れてからのことである云々。

何れも半世紀以前から行われ今日に及び戦後は各宗派間にも行われ、殊に神教系学生、生徒、園児の団体を通じて盛んとなり、特に昨年は政府主催による積尊二千五百年を讃える行事が花まつりと前後する時期に行われたので大変なプラスとなり、いたるところ花まつりは式典に於て、またはアトラクションに於て従来に見られぬほどの盛大さとなつていたように思う。

然し昨年のことは例外であつて概ね毎年の花まつりを回顧して見れば、いつも誕生仏に甘茶をかける素朴な行事の繰返して半世紀を

経てあらゆる文化現象が目新しくなつてゐる現代に於ては少し物足りないものがあると思う。

さればと云つて花まつりのアトラクションにジョン・ケーキの音楽やマチユエの絵画をもつてするような突飛なプランを望むものではないが、聖は真であり真は美に通じ美は常に斬新を要求する、その意図にもとづくものとするれば、仏教徒の花まつり行事は今日もつと近代色を帯びた感覚と創意とが望ましいと思う。

先年京都方面の有志からルンビニー美化運動が提唱され或は国際的に釈尊像の贈答が行われ、ゴータマ・ブツダの作詩作曲が行われ最近ニルバーナ交響曲が生れたり仏教聖歌隊が発して混声に独唱に仏教全体運動として長足の進歩と云うべきものもあるようだが、花まつり其他の他仏教の年中行事のプランについてはマンネリズムが多いと思う。

全仏に於ては近く本年度の各専門委員会も発足するので其の機会には之等に関する研究討議も行われ

れ新しい工夫や創意も打出されることと思う。
花まつりを屋外と屋内に分けて考へて見ることも必要である、都市繁華街に於ける商業美術とマツチするデコレーション等もクリスマス等の俗悪化を顧みつゝ、好ましい創意と工夫は多くの同志が希望しているところである

昔四月八日は浅草の花まつり本部から日比谷公園の花御堂(音楽堂)まで僧服正装の団に前後して山伏法羅貝の修験行者、それに早大教授の武田豊四郎氏の印度僧服や稚子を交えたパレードは全市民の眼を奪ひ、都電の車掌は帽子に花まつりと書いた造花の記章をさしていた。

此の行列は途中各デパートで休憩しお茶の接待を受け帝国ホテル前にあつた愛国生命で更に支度を整へ日比谷公園の式場に乗り込んだ。
或人の希望的談話によると、花まつりには生花商組合と花道の先生方と連絡し、なんとか此の一日の花を大衆に供養してあげる途はないものか、また甘茶と共にお祝の意味で酒屋さん組合とも連絡し、多少の酒供養を考へてもよいと云つていた。

宇宙時代に因んでヘリコプターを活用して空からの散華とか、花

全仏では一月二十三日午前十一時より、東京築地の本願寺特別室において常務理事会を開催した。

組織強化を重点に

新年度の事業計画

常務理事会開かる

先ず太田理事長が年頭の挨拶を述べると共に、新任の大村事務局長と狩野組織局長を紹介した後協議に入り次の通りそれぞれ決定が

行なわれた。
(1) 昭和三十五年度事業要綱並びに予算大綱に関する件
これについて要本局長より提案説明が行なわれ、それにもとづいて協議した結果、予算編成については前年度のもの基本的に踏襲することとし、事業については組織強化を中心として計画立案することを確説し、その具体化については事務総局で行なうことを決定した。

(2) 才八回全日本仏教徒会議開催に関する件
狩野局長より提案し、要本局長が補足説明を行なつた結果、石川県仏教連合会の協力により、五月十九、三十日に金沢市で開くことを諒承し、具体的交渉は事務総局で行なうことを決定した。

(3) 全国宗務総長会議開催の件
才一議題に関する具体化に先立つて、負担金の面で重要な拠出をする各宗派の宗務総長会議を開く必要について要本局長より説明を行ない、一月二十六日京都で開くことを決定。

(4) その他
A 英文仏教百科辞典編纂所事業の今後の善処策を講ずるために右編纂所理事として北畠教真、友松円諦、中山理々、阿部道伝、西義雄の五氏を追加委嘱することを承認した。
B 宮城県仏教協議会の加盟を承認した。
C 常光理事より、病身の理由を以つて辞任したい旨の説明があつたが、慰留された結果この件については保留されることになつた。

なお、当日の出席常務理事は次の各氏順不同(略敬称)
太田淳昭、佐々木泰翁、望月恒臣、竹村敦智、山本 杉、木全大孝、神田尚賢、宮谷法合、常光浩然、重永 潜、長岡慶信、小林大巖、千々和宝天、有馬清雄、

有識経験の各氏を結集

各種専門委員を委嘱

去る十二月二十三日開催の常務理事会で設置が決定され、その人選については理事長に一任されていた各専門委員会の委員が次の通り決定、二月十三日付で各氏宛に委嘱状が発送された。

- 全仏の専門委員会は従来
 (1) 総務委員会、(2) 組織委員会、
 (3) 国際委員会、(4) 教化・教学委
 員会、(5) 社会・平和委員会、(6)
 政治・経済委員会、(7) 宗教法人
 法問題専門委員会、(8) 墓地問題
 特別委員会、(9) 解放農地補償問
 題特別委員会、
 の八委員会が置かれていたが、
 これら各委員会を取り扱う問題の
 重複や関連等を考慮し、その有機
 的な運用を期するために、これを
 改組して、次の五委員会を設置す
 ること、なつたものである。

(1) 宗教法人対外委員会

これは、墓地問題（地方公共団
 体有墓地の払下げ問題、対創価学
 会墓地紛争問題等）、解放農地補償
 問題、現在各地で起つてい下
 水道受益者負担金問題、税金その他
 寺院の利害関係にかゝる問題に
 ついて適宜有効に対処するために

(2) 組織・教化委員会

設置されたものである。委員は次
 の各氏（以下各種委員共に略敬称
 順不同）
 今井祐申、小笠原義雄、小野塚
 潤澄、高辻恵雄、竹中素仁、中村
 貞元、野村宗春、能登有兆、倉持
 秀峰、深井恵竜、小松浄祐、阿部
 諒童、佐瀬淳光、清野学道、北之
 内真竜、白山亮一、広沢栄孝、鈴
 木敏範、木全大孝、三浦誠之、葦
 名俊清、

在来、別置されていた組織委と
 教学・教化委を合併した。これは
 全一仏教運動の進展を期するため
 には、この両者を切り離しては考
 えられないからであり、また総合
 的な研究や協議の必要を痛感した
 からである。と同時に夫々の問題
 により個別の研究も必要とする
 ので、青少年問題、幼児教化、婦
 人会運動、マスコミ対策、社会福

(3) 社会問題委員会

在来、別置されていた組織委と
 教学・教化委を合併した。これは
 全一仏教運動の進展を期するため
 には、この両者を切り離しては考
 えられないからであり、また総合
 的な研究や協議の必要を痛感した
 からである。と同時に夫々の問題
 により個別の研究も必要とする
 ので、青少年問題、幼児教化、婦
 人会運動、マスコミ対策、社会福

(5) 宗教法人法問題 専門委員会

現在問題になつている現行宗教
 法人法の改正や伊勢神宮特別措置
 の問題について仏教会としての態
 度や意見をまとめ、適時それらの
 動勢に対処するため昨年八月発足
 したのがこの委員会であるが、こ
 れは刻下の問題でもあり、その重
 要性に鑑みてそのまゝ存置するこ
 とになつた。

因みに既に委嘱してある委員は

社事業等の夫々の問題について小
 委員会を設けることになつてい
 る

大野信三、田中車一郎、中山理々
 山本洋一、松本徳明、丸山行遠、
 摩尼清之、増永靈鳳、小松雄道、
 安藤覚、斎藤栄三郎、三谷会祥、
 徳沢竜潭、常光浩然、堤敏郎、米
 山久、須賀憲二

(4) 国際委員会

戦後の仏教界では国際的交流が
 非常に盛んとなり、諸外国との親
 善関係促進と相互理解に寄与して
 きたが、このような活動を一層有
 効適切に進めるため、新たに専
 門各氏に委嘱して、従来通りこの
 委員会を存置することになつた。

次の各氏
 阿部竜伝、増永靈鳳、山本洋一、
 摩尼清之、壬生照順、小松雄道、
 長岡慶信、岩野真雄、常光浩然、
 友松円諦、中山理々、小野清一郎
 松本徳明、久保田正文、三原信一
 雲藤義道、大野信三、下村寿一、
 大谷堂潤、中村貞元、小林智晃、
 小野塚潤澄、倉持秀峰、櫛田良洪
 藤田俊訓、野村宗春、桜井栄章、
 竹中素仁、深井恵竜、高橋照空、
 太田淳昭、大村仁道、栗本俊道、
 狩野獲麟、石川存静

『都市寺院の 社会的機能』

B判一五〇頁
 頒価八〇〇円
 （送料共）

「文交」ではかねて全国仏教
 大学の研究者の協力によつ
 て、わが国寺院の実態を把握
 する努力を進めてきたが、
 「都市寺院」の部がまとも
 刊行された。

これは、仏教学、宗教学、
 社会学それぞれの専門家によ
 る共同研究の成果として、久
 しく待望されていたもので、
 豊富な図表と多角的な分析は
 各方面の注目をあつめてい
 る。

お申込は 仏教徒文化交流協会

東京都中央区築地三ノ一
 振替東京一六二七九〇番
 七〇〇部限定版、残部僅少

五月二十九、三十の両日 第八回全日本仏教徒会議

石川県金沢市で開催

一月二十七日、金沢市の東本願寺別院において、かねて接渉中であつた才八回全日本仏教徒会議開催のための打合せ会が開かれた。当日は石川県下各宗代表者等約二十名、金仏から狩野局長、吉井柳西部長が会同し、庄村事務局長の案内で本堂、書院、会館等の来るべき大会々場を下検分し、さらに大会に関する詳細について話し合いが行われた。

その結果、会期は来る五月二十九日、三十日の二日間とし、同三十一日を市内見学に当てることと決定、早速に準備委員会を設置して具体的な受け入れ準備に入ることとなつた。

なお、大会の意義を全国的に周知

福井県 仏

石川県での大会を期して北陸各県の仏教会組織強化をめざしている全仏では、一月二十九日柳部長を福井県へ派遣した。

その結果、同県仏も最近役員改選等が行なわれてきた折でもあり又金沢大会も開かれるので、近く正式に全仏加盟、協力の見通しがつき、全仏当局を喜ばせている。

知らせる意味で開期中に「放送討論会」を開くようにすること、またポスターを大量に作製して全国的に頒布宣伝することなどを申し

受益問題解決へ努力

宗教法人対外委開く

二月二十五日午前十時より東京築地本願寺において才一回の全仏「宗教法人対外委員会」が開かれた。

この委員会は従来設置されてきた墓地問題、農地問題、下水道問題等の各委員会を合併して新設されたものである。今後、これらの諸問題を如何に取り扱うかを中心に協議が行われた。

委員会は先づその構成として委員長一名、副委員長二名を置いて運営してゆくこととなり、委員長に倉持秀峰氏（埼玉県仏）、副委員長に中村貞元（曹洞宗）、今井祐申（東京仏）の両氏を選出し、倉持委員長を座長に協議に入った。

(1) 下水道問題について
現在全国的に各都市計画等により下水道施設の為の受益者負担金割当が行なわれており、宗教法人も何等免除の考慮がされて

合わせた。

この大会は従来各宗本山を中心に行なわれてきたが、地方仏教会を中心に行なうのは今回が初めてであり、その意味で各方面から注目されているので地元でも万全を期して鋭意努力が行なわれている。

なお才一回準備委員会が三月一日金沢別院で行われ準備の万全を期している。

めてゆくことになつた。

(4) その他

文部省による宗教類型「特性調査」について事務総局より説明を行い日本宗教連盟で検討している現状（文部省による「調査」という形ではなく、宗教界としても納得できる形で行なわなければならない、という大勢）を承認した。

全国宗務総長会議

京都知恩院で

一月二十六日午前十時半より、京都知恩院の華頂会館において全国宗務総長会議が開かれた。

当日は全国より二十八宗派の総長が出席し、全仏運営の諸問題について熱心な協議が行なわれた。

この会議は、全仏運営の基礎となる財政問題について負担金の大半を提出する各宗派の総長会議として事務総局でも重視していたが各宗派当局でも前年通りの提出を確認され、予算編成上の基盤が確立された。

このほか、英文仏教百科辞典編纂事業完遂のため尚一層協力することが申し合わされ、また才八回全日仏徒会議開催、才六回世界仏教徒会議参加等の問題についても協議が行なわれ、午後二時閉会した。

西日本府県仏

代表会議

去る二月十七日午後一時より、

京都知恩院の華頂会館において西日本地区府県仏教会長会議が開かれ、京都、大阪、岡山、兵庫、石川、奈良、和歌山、山口の各府県仏代表が出席した。

会議は各自自己紹介の後、京都府仏の心山理事長を座長に推して進められた。

太田理事長、中島知恩院執事の挨拶があつた後、栗本局長より三十五年度の全仏運営につき提案説明が行なわれ、予算は前年度踏襲、事業として各専門委員会の運用と地方仏教会組織強化を重点として行きたい旨を述べて、質疑検討が行なわれた。また才八回全日仏徒会議開催については、石川県仏から出席の波作場氏よりも発言があり、大会成功のため積極的な意見交換が行なわれた。

その他、今秋の世界仏教徒会議の件や農地、墓地問題、また文部省の宗教特性調査について報告があり、殊に特性調査の問題に関しては強い批判意見が出された。

因みに当日の出席府県代表は 心山義繁（京都）波田寂坦（岡山）佐藤覚雄（兵庫）波作場せつ華（石川）松本静戒（奈良）間野敬重（大阪）坂口光応（和歌山）有馬清雄（山口）の各氏

セイロン独立

祝賀会開かる

駐日セイロン大使館（フオンセカ大使）では才十二回目の独立記念日にあたる二月四日午後五時半から東京高輪光輪閣に在日各国外交団、仏教界をはじめ各界から多数のゲストを招いて盛大なレセプションを催した。

各小委員会で検討進む

組織・教化委員会開かる

新しく委嘱された組織・教化委員の才一回委員会が去る一月二十五日午後一時半より、東京築地本願寺才一控室で四十名余参集のもとに開かれた。

この委員会は、別報の通り、全一仏教運動推進の基盤となる組織問題と教化問題を有機的に取り扱おうとするもので、七十名余の委員会となつたが、同時に各問題別の小委員会で、それぞれ詳細な研究討議が行われることになつてい

る。委員会は先づ、その構成として委員長、副委員長をそれぞれ選出することとなり、松本徳明氏を委員長に、又副委員長に川田聖見、丸井玄信、内山憲尚、船口輝子、摩尼清之、長谷川良信の各氏を依頼し今後の円満なる運営を期することとなつた。

ついで才八回全日本仏教徒会議の開催について事務総局より説明して各委員の意見を聞き、また花まつり行事の問題についても各委員から豊富な経験にもとづく意見開陳が行なわれた。

なお、本委員会では今後各問題毎の小委員会を開いて、それぞれの解決のための検討を進めることを決定して午後三時半散会した。

友好の平和観音像

ロンドン仏教協会へ

国際平和観音讃仰会(会長古川為三郎氏)では世界平和、国際親善の目的を以て過去七年に亘つて大慈大悲の観世音菩薩像を鑄造し北米、ブラジルをはじめ世界各国へ夫々一體づつ全仏を通じて贈呈して来ているが、今回ロンドン仏教協会よりの要請に基き才十二体の観音像を同仏教協会ラルフ・ムンロウ氏あてに全仏を通じて贈つた。なお同仏像の見送り式は二月廿七日午後二時より折から名古屋港埠頭に停泊中の大阪商船ブエノスアイレス号において挙行され同日同船長に托して発送された。

平和観音讃仰会では合計三十三体の観世音菩薩像の製作と各国への贈呈をその目的としてをり、その完遂までには幾多の困難が横たわっているが会員一同熱烈なる努力を傾倒している。

親善の大仏像

ラングーンで

盛大な贈呈式

ビルマ国民へ友好親善のシンボ

ルとして贈る大仏像持帰員として日本仏教界を代表して渡緬、このたび帰国した全仏理事長太田淳昭師は、ラングーン市における贈呈式の模様を次のように語つた。

式場はラングーン市中央部にある金色まばゆいピース・パゴダ内においてビルマ国満月の日に當る一月十二日午前八時より盛大に行われた。ビルマ側から代表として、ウ・ティン・モン前首相兼外相、ウ・チャントン・オン外相、ウ・チャン・トン世界仏教徒連盟会長、サーウ・ズウイン仏教協会長の外、僧侶二百名、一般二百余名が参列し三木行治团长(岡山県知事)の贈呈の辞、仏教界代表である私の全仏会長祝辞代読、読経について、ビルマ側前記代表三氏の挨拶及読経があり、三木团长より贈呈目録をビルマ仏教協会長に手交し、この間ビルマ僧侶の読経がつづき、式典はきわめて厳粛目盛大に執り行われた。仏像はピースパゴダ内中央部ヒナ壇に安置され、一メートル八五センチの金色の座像から放つ美しい光は参列者の目を見はらせるものがあつた。私達代表一行はこれを機に日緬兩國のあらゆる面が円滑に展開され、また兩國々々の親善と友好のキズナが益々強く結ばれんことを祈りつつ帰途についた次第である。

大ねはんの集い

昭和卅五年度「大ねはんの集い」は、十五日午後二時から東京仏教諸団体連合主催のもとに、浅草東本願寺大谷ホールにおいて凡そ三百人の参加者を集めて盛大に行われた。

大会は先づ、副会長重永潜師の開会の言葉に始まり、大ねはんの

集い会長正力松太郎氏の挨拶について、上野学園短大合唱団の伴奏により幼稚園児らによる献華献灯がなされ、続いて全仏代表大村仁道事務総長によつて献香が行われた。

ついで、東本願寺新法主大谷光紹師の三篇依文朗読と法話にうつり、最後に「民族の音楽感情」と題して、作曲家黛敏郎氏の記念講演が行われ、東芝提供のステレオによる交響曲「涅槃」の幽遠荘嚴なる演奏のうちに式典の全部は厳肅裡に幕を閉じた。

神奈川県仏理事会

神奈川県仏では去る一月二十三日午後一時より県仏事務所、横浜新善光寺で新年の全体理事會を開催し、全県下から約二十名が出席した。

同席上では、釈尊二千五百年祝典(昨年四月)を契機に生まれた「釈尊奉讃會」(在家中心)を永續組織とすることとなり、そのため県下各寺院から三名以上を会員として推薦することを決定。また四月八日に右奉讃會結成大会をかねて「釈尊奉讃大會」を挙行することを決定した。

才十二回

世界連邦建設同盟

才十二回世界連邦建設同盟全国総会は二月十三日一時より東京千代田区参議院會館において開催された。全国より集つた支部代表は凡そ百五十人、それにオブザーバ

一五十人。

會議は先づ建設同盟会長片山哲氏の挨拶に続いて来賓の祝辞があり、全仏からは狩野組織局長が出席、「世界平和の実現と人類恒久の福祉増進のために軍備の必要がないことは、二千五百年の普釈尊が身をもつて示された所であり、それは今もそして未来永劫に不變の真理であり、その意味において世界連邦建設同盟の理想は仏教の教えと全く同じであるから、したがつて同志は齊しく共に手を携えて人類の悲願、恒久平和実現のために團結邁進しなければならぬ」旨の大谷全仏会長の祝辞を力づく朗誦して満場の拍手を浴びた。

駐日インド大使帰国

一昨年日本着任以来、特に日本仏教徒に親しまれていた駐日インド大使S.C.P.ナラヤン・シン氏はこのたび任務を終え、去る二月一日午後十一時四五分羽田発のインド航空機で帰国した。

なおシン大使の離日に先立ち、日本仏教讃仰会(理事長中山理々師)では過般盛大なる同大使の歡送会をひらき、数々の記念品を送り、在日中の厚意にこたえた。

あとがき

◎ ようやく春の躍動の季節も近づきました。各団体でも釈尊降誕の花まつりを中心に、いろいろの催しや活動の計画が立てられていることと存じます。情報をぜひ本会事務局へお寄せくださるようお願いいたします。

◎ 二月号は休刊させて頂きました。悪しからず。